

生産管理システムをノンカスタマイズで導入

——生産管理部門の9割の課題を解決

医薬品安定性試験のトップブランドを誇るナガノサイエンスは、2011年、生産管理部門のシステム化への取り組みを開始。情報システム部門と生産管理部門のリーダーの主導により、ITベンダーに依存しないノンカスタマイズでの生産管理システム導入に成功しました。

需要増で浮き彫りになったシステム化のニーズ

ナガノサイエンスがシステム化の検討を始めた2011年、一日当たりの購買手配数が、3年前の2倍近くに膨れ上がっていました。背景にあったのは受注の増加と内製部品の外注化による部材調達数の増加。これらに対応できる体制を構築するために、業務の効率化・標準化が大きな課題となっていました。

当時、設計・調達・生産・保守のそれぞれの部門が、同じ部品に対して異なる品目番号を割り当てていました。これら部門間の情報伝達が紙ベースで行われていたため、情報の転記作業が多く、誤記入などで情報が正しく伝わらないことがありました。さらに、購買量の増加で部品の誤発注も増え、計画通りに部品が入荷しない課題もありました。その結果、生産に遅れが生じ、納期を遵守するために、社員が非常に多くの工数を費やしていました。

ノンカスタマイズのためには高い要件適合率が必須

新生産管理システムの選定に当たり、企業規模やIT予算を考えた結果、当初から、自社開発ではなくパッケージを前提に、複数のシステムを検討しました。在庫や製造といった特定の業務のみに対応したシステムも検討しましたが、2度の評価ステップを経て、IFS Applications™の生産管理ソリューションを選択しました。

選定の基準は、自社の業務要件に最も適合していること、既存の他システムとの連携が可能なこと、生産以外の業務にも将来的に適応できる拡張性、当時計画していた海外展開に対応できる多通貨・多言語機能などでした。特に、「カスタマイズをせずに、パッケージの標準機能を活用する」という方針が強く打ち出されていたことから、業務要件の適合率は、システム選定の大きな要素でした。

ナガノサイエンスについて

ナガノサイエンスは、医薬品安定性試験機器の製造販売、及びサービスの提供を行っています。お客様の生産性をより高めるために、リスクアセスメント、クオリフィケーション、メンテナンス、教育・訓練など、専門的な知識に基づいた幅広いオリジナルサービスを提案しています。



地道な社内教育で、ユーザーへの浸透を図る

プロジェクト開始前に、3日間のIFS製品のワークショップを通して、キーメンバーが基本機能を習得しました。これによって、IFS Applicationsの標準機能をどのように自社の業務プロセスに適用できるかを把握することができました。

2012年11月に導入プロジェクトが始動。ERPパッケージを利用した経験のある社員がほとんど存在しなかったこともあり、新しいシステムの導入とともに業務知識を習得させたいというプロジェクトオーナーの意向で、時間をかけてユーザーに教育を行うことになりました。まずは受注から調達、在庫管理、生産管理などのシナリオを作成しました。その後、ITベンダーの協力を得て、シナリオごとに、関連する部署のキーメンバーに対して操作教育を実施。これには、IFSの標準機能に沿った業務の流れを理解してもらう目的もありました。

キーメンバーが常にプロジェクトをリード

ERPパッケージはもとより、業務システムを操作した経験のない社員がほとんどで、そのため、業務の流れの理解や操作の習熟、データの準備などに想定より多くの時間がかかりました。結果として、何度か本稼働予定を延期しましたが、2014年7月に無事本稼働を迎えました。

特筆すべきは、このプロジェクトを自社のキーメンバーが主導したことです。基幹システムの導入プロジェクトでは、ITベンダーへの過度な依存傾向が多く見られます。しかし、ナガノサイエンスでは、プロジェクト当初から、キーメンバーが常にプロジェクトをリードし、必要に応じてベンダーの支援を要請する形で進めました。カスタマイズなしでの導入を決めたことも、ベンダーに依存せずにプロジェクトを遂行できた要因といえるでしょう。

部品調達業務で大きな成果

生産管理部門では、この新システムにより、90%近くの課題が解決しました。一番の成果は、発注に関わるトラブルの大幅な削減です。システム化により、手入力や紙での情報受け渡し時に発生していたヒューマンエラーがほぼなくなりました。その結果、誤発注、誤品納入が減り、こういったトラブル対応のための人員を、納期の調整や品質不具合の対応など、他の業務に割り当てることができるようになりました。タイムリーに部品が納入されるようになり、製造工程における遅延も減りました。その結果、1台当たりの製造効率は、10%ほど向上しました。

システム化によるもうひとつのメリットは、問題が発生した場合に、その原因の究明が容易にできることです。全てのデータが一元管理されているので、どこに問題があるのかがすぐに把握でき、迅速な対応が可能になりました。

会社全体の業務効率化に向けて

生産管理部門でのシステム活用は進んでいますが、データの精度向上やユーザーのレベルアップ、リアルタイムでの実績インプットなど、まだ課題は残っています。

さらに、経営層からは、今回のシステム投資に対する効果を最大限に引き出すためにも、会社の戦略に照らし合わせたシステム活用の指針策定を求められています。会社全体の業務効率化のために、次のステップとして、IFS Applicationsの保守部門や経理部門への展開、他の業務システムとの連携を検討しています。

導入の効果

- ・業務プロセスの標準化
- ・システム化によるスムーズな情報連携
- ・部品調達業務の精度向上
- ・1台当たりの製造効率10%アップ
- ・問題へのタイムリーな対応が可能に

導入ソフトウェア

IFS Manufacturing

IFS Supply Chain